

保 健 医 学

教 授 渡 辺 正 男
助 教 授 鏡 森 正 信
助 手 濱 田 優 仁
助 手 成 瀬 優 知
文部事務官 越 崎 一 美

◆研究概要

教室の主要研究テーマとしては、第一には各種の健康障害における環境と遺伝の相互関連に関する疫学的実験的研究として、先天異常における感染性要因、環境要因相互の複合影響などについて行って来た。第二には、ウイルス感染症の予防と治療法としてのインターフェロンの応用に関するものである。従来からの継続を含め現在実施しているものは以下の通りである。

1) 先天性奇形の発生要因：Virus, 原虫等の妊婦感染を血清疫学的に調査し、その出生児に与える影響について研究を進めている。

2) 感染に影響する環境要因：イ病患者的の貪食細胞機能をNBT testで調べたところその低下がみられ、それは貪食細胞数の減少によることがわかった。

3) 催奇形性、突然変異原性に関する複合毒性：マウスを用いた動物実験でPCBと風疹感染、又はカドミウムとDMNの投与が奇形発生性またはMicronucleus testによる突然変異原性に与える複合効果を検討した。

4) カドミウムの生体影響：カドミウム汚染地域住民の臨床医学的検査結果に基づく疫学的研究と、マウスを用いた毒性研究を行った。

5) 免疫グロブリンEの疫学：アトピーの遺伝的マーカーとして免疫グロブリンE'を児童集団で測定しこれと環境抗原との関連を分析した。

6) 血清フェリチンの疫学：潜在性鉄欠乏性貧血の指標とされる血清フェリチン値の追跡調査を初潮前後の女子について実施し発育の関連を先ず明らかにした。

7) インターフェロン誘起物質に関する研究：和漢薬を始め各種インターフェロン誘起性物質の検索を始めた。

◆原 著

1) 渡辺正男：先天異常モニタリングの疫学的手法、富山県農村医学研究会誌 11：113-118, 1980.

2) 石田礼二, 越山健二, 北川鉄人, 水木正雄, 一柳兵蔵, 渡辺正男, 竹部喜代子, 跡路順子：富山県下農家の糖尿病調査(第5報), 同上 11:

13-14, 1980.

3) 石田礼二, 越山健二, 一柳兵蔵, 北川鉄人, 渡辺正男, 竹部喜代子：農繁期の肝機能に及ぼす影響, 同上 11：18-24, 1980.

4) 林 美貴子, 本田幸子, 渡辺正男：ヒト染色体に関する調査研究, 富山県衛生研究所年報(昭和54年度), 23-24, 1980.

5) 本田幸子, 林 貴美子, 渡辺正男, 松田健史：Micronucleus testによる突然変異原性に対する複合効果, 同上, 25-29, 1980.

6) 石倉康宏, 渡辺 護, 森田修行, 西田義雄, 渡辺正男他12名：富山県東部に発生した新型恙虫病とその背景, 同上, 44-53, 1980.

7) 松永明信, 小林 寛, 渡辺正男：人乳中の重金属含有量, 同上, 82-84, 1980.

8) 城石和子, 渡辺正男, 庄司美樹, 狐塚 寛：イタイイタイ病要観察者の血清中 β_2 ミクログロブリンについて, 同上, 85-88, 1980.

9) 西野治身, 城石和子, 渡辺正男：イタイイタイ病要観察者における血清中遊離アミノ酸の検討, 同上, 89-92, 1980.

10) 渡辺正男, 城石和子, 西野治身, 岩田 隆, 新村哲夫, 中田仁三, 田中朋子, 村瀬 均, 庄司俊雄, 山崎茂一：米飼料によるマウスのカドミウム慢性影響, 同上, 93-103, 1980.

11) 本田幸子, 林 美貴子, 森田修行, 林 圭子, 西田義雄, 渡辺正男：先天性代謝異常のマススクリーニングの成果について, 同上, 104-106, 1980.

12) 渡辺 護, 石倉康宏, 森田修行, 西田義雄, 渡辺正男, 清水宗則：恙虫病発生地におけるツツガムシの調査成績, 同上, 113-119, 1980.

13) 庄司俊雄, 森田修行, 渡辺正男：先天性異常児発生の調査と監視計画—中間報告—, 同上, 140-143, 1980.

14) 岩田 隆, 城石和子, 渡辺正男：富山県における一般住民の尿中重金属濃度について, 同上, 219-221, 1980.

15) 渡辺正男, 菅原利夫：環境汚染物質の生体に対する複合影響(II)—マウス口蓋裂発生に対するPCBと風疹ウイルスの複合効果—, 北陸公衆衛生学会誌 7：21-24, 1980.

16) 渡辺正男, 城石和子, 西野治身, 岩田 隆, 新村哲夫, 中田仁三, 田中朋子, 村瀬 均, 庄司俊雄, 山崎茂一：米飼料によるマウスのカドミウム慢性影響：イタイイタイ病およびカドミウム中毒(上巻)「環境保健レポート」, 179-194, 1980.

17) Shingu H., Sugiyama M., Watanabe

M. and Nakajima T.: Effects of ozone and photochemical oxidants on interferon production by rabbit alveolar macrophages. *Bull. Environm. Contam. Toxicol.* **24**: 433-438, 1980.

18) 鏡森定信, 成瀬優知, 岡田 晃他7名: 高血圧の発病に関する都市住民の10年間の Cohort Study, *公衆衛生* **44**: 69-75, 1980.

19) 鏡森定信, 成瀬優知, 有泉 誠他9名: 循環器疾患の Risk Factor に関する研究(3)—眼底出血の頻度と予後—, *日本公衆衛生雑誌* **27**: 313-321, 1980.

20) 鏡森定信, 岡田 晃, 飯淵康雄: 日英の主要疾患死亡の因子分析による比較研究—職業別 S M R による共通因子の検討—, *民族衛生* **46**: 43-51, 1980.

21) 入部美則, 鏡森定信, 成瀬優知, 渡辺正男, 永原良美, 太田和子, 藤井正男: 潜在性鉄欠乏状態の指標としての血清フェリチンの検討, *北陸公衆衛生学会誌* **7**: 64-72, 1980.

22) Kagamimori S., Scott M. P., Brown D. G., Edwards R. E. and Wagner M. M. F.: Effects of chrysotile asbestos on mononuclear cells in vitro. *Br. J. Exp. Path.* **61**: 55-60, 1980.

◆ その他

1) 渡辺正男: カドミウム汚染と喫煙について, *N S クラブ会報*, **44**. 5, 昭55. 10.

2) 富山医科薬科大学保健医学教室・公衆衛生学教室編: *社会医学実習報告書*, 第1集, 1980. 8.

3) 渡辺正男: 保健医学の課題, *北陸と公衆衛生*, 第12号: 1-2, 1980. 7.

◆ 学会報告

1) 松永明信, 小林 寛, 渡辺正男: 人乳中の重金属含有量について, 昭和54年度東海北陸ブロック衛生化学部会, 1980., 名古屋.

2) 城石和子, 中田仁三, 渡辺正男, 庄司美樹, 狐塚 寛: イタイイタイ病要観察者の β_2 ミクログロブリンに関する検討, *イタイイタイ病およびカドミウム中毒に関する研究班会議*, 1980. 3, 東京.

3) 西野治身, 城石和子, 渡辺正男: イタイイタイ病要観察者における血清中アミノ酸について, 同上.

4) 渡辺正男, 城石和子, 西野治身, 岩田 隆, 新村哲夫, 中田仁三, 田中朋子, 村瀬 均, 庄司俊雄, 山崎茂一: 米飼料によるマウスのカドミウム慢性影響, 同上.

5) 松永明信, 渡辺正男: 人乳中の重金属含有量, 第50回日本衛生学会総会, 1980. 4, 大阪.

6) 西野治身, 城石和子, 渡辺正男: カドミウム汚染地域住民の血清中アミノ酸について—イタイイタイ病要観察者—, 同上.

7) 成瀬優知, 浜田 仁, 鏡森定信, 渡辺正男, 柴田忠良, 佐藤光信: 奇形発生要因に関する研究—先天性股関節脱臼発生に対する感染性要因—, 第39回日本公衆衛生学会総会, 1980. 10, 千葉.

8) 鏡森定信, 窪田道男, 中谷喜彦, 岡田 晃: アスベストおよびベリリウムの Antibody Dependent Cell-mediated Cytotoxicity (in Vitro) 系への関与, 第53回日本産業衛生学会, 1980. 5, 仙台.

9) 金木丈干, 鏡森定信, 成瀬優知, 長井洋子, 中川 茂, 岡田 晃: 脳卒中登録システムからみた後遺症の実態と関連要因の retrospective study, 第39回日本公衆衛生学会総会, 1980. 10, 千葉.

10) 入部美則, 永原良美, 鏡森定信, 渡辺正男: 学童期(女子)の貧血と血清フェリチンについて, 同上.

11) Okada A., Kagamimori S., Nohara S., Miyamoto N., Ariizumi M., Naruse Y. and Watanabe M.: Epidemiological Study on Immunoglobulin (E) in Relation to Mites and Ascaris. The 10th International Congress on Tropical Medicine and Malaria, 1980. 11, Manila.

公 衆 衛 生 学

教 授	加須屋	実
講 師	寺 西	秀 豊
助 手	青 島	恵 子
助 手	加 藤	輝 隆
文部事務官	山 本	広 志

◆ 原 著

1) Teranishi H. and Kasuya M.: The effects of phthalate esters on fibroblasts in primary culture. *Toxicol. Lett.* **6**: 11-15, 1980.

2) Aoshima K. and Kasuya M.: Interactions between mercuric chloride and sodium selenite on cultured rat cerebrum. *Toxicol. Lett.* **6**: 181-186, 1980.

3) Kasuya M.: Toxicity of butylbenzyl phthalate (BBP) and other phthalate esters to nervous tissue in culture. *Toxicol. Lett.* **6**: 373-378, 1980.

4) Kasuya M.: The effect of methylcobalamin on the toxicity of methylmercury and mer-